

# た そ が れ

## 「語りかけ」と「話し合い」を中心に展開する

- (1) 主題名 礼儀の意義 [ 2 - ( 1 ) ]
- (2) ねらい 自分たちの生活を振り返り，あいさつをしようとする心情・意欲・態度を育てる。
- (3) 資料名 「たそがれ」
- (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 「たそがれ」と「かわたれどき」について知る。 ・資料の の部分を語る。 ・資料の の部分を語る。	「たそがれ」という言葉を知っていますか。一日の中のいつのことを言うのでしょうか。 ・知らないよ ・聞いたことがない 「たそがれ」と同じように，向こうから来る人の顔が見えにくい時間帯があるのですが，わかりますか。 ・夜明け前のことかな	「礼儀」「あいさつ」について考えるととは言わない。言葉から内容の価値に関心を高めさせたい。 資料を配付して読むのではなく，自分の言葉に直して語りかける。
展 開	2 「あいさつの始まり」を知る。 ・資料の の部分を語る。 ・資料の の部分を語る。 3 現代のあいさつについて考える。 ・資料の の部分を語る。	薄暗い道の向こうからやってくる人がいたら，どうしたと思いますか。 ・こわいから隠れたんじゃないかな ・大声でさげんだんじゃない  大急ぎで逃げださなくてはいけないのはなぜだと思いますか。  現代では本当にこの世に魔物はいなくなっただけでしょうか。いるとしたらどこにいますか。 ・まだいるかもしれない ・それぞれの人間の心の中にある マニュアル本によるあいさつは，心に届くでしょうか。 ・「マニュアル本」のあいさつは，心がこもってなくてなんだかウソっぽい。 ・マニュアル本でもあいさつは大切だと思う。	「昔の人はどうしたか」を考えさせたい。 いろいろな考えが出るように意図的に指名する。  心の中にいるかもしれない魔物に気付かせ，あいさつとの関係を考えさせたい。  「心のノート」P.38～P.40を読んで，「虚礼」について考えさせてもよい。
終 末	4 指導者の体験談を聞く。	「あいさつ」によってさわやかな気分になった話や心が温まった話など，生徒があいさつのよさを感じられる体験談を話す。	身近に感じられる例を具体的に挙げ，心のこもったあいさつが人に喜びを与えることに気付かせたい。

## 「たそがれ」

みなさんは、「たそがれ」という言葉を知っていますか？

一日のある時間帯のことを表す言葉なのですが、いつのことを言うのでしょうか？

「たそがれ」とは、夕方、少し薄暗くなってきて、向こうからやってくる人の顔がよく見えなくて、「だれだろう？ あの人」<sup>ひと</sup>と思うような時間を指す言葉なのです。漢字で書くと「誰（た）そ彼」と書きます。

一日の中には、この「たそがれ」と同じように、向こうから来る人の顔が見えにくい時間帯があるのですが、いつかわかりますか。

朝、まだ日が昇る前、少し明るくはなっているけれど、まだまだ夜の暗さが残っているような時間。この時間のことを「かわたれどき」といいます。「彼（か）は誰（たれ）どき」、つまり「彼はだれだろう？」と聞きたくなるような時間という意味です。昔の人は、これらの時間帯のことを「逢魔時（おつまどき）」と考えていました。人ではない「魔」に出逢う時間帯だから、十分に気をつけなさい。できれば、外に出ない方がいい。特に子どもは、外にいてはいけません。人里離れたところに行くなんてとんでもない。と言っていたのです。

でも、こんな時間帯でも、どうしても外を歩かないといけないことはありますよね。特に、旅をしている人は、暗くなるまでに村や町に着きたくても、到着しないこともあるし、遠くまで行こうとすると、朝早く出発しなくてはいけないこともあります。こんな時、薄暗い道の向こうからやってくる人がいたら、どうしたと思いますか？

向こうからやってくる人に、大きな声で話しかけたのです。

「こんにちは」「お元気ですか」

「おはようございます」「どこへお出かけですか」

そして、むこうから、

「こんにちは」「おそくまでおつかれさまです」

「おはようございます」「今日は隣村まで行くのですよ」

と声が返ってきたり、反応があったりしたら、安心して近づいていって、その人とすれ違いました。でも、その「人」から声も、反応も返ってこなかったら・・・。

大急ぎで、そこから逃げ出さなくてははいけません。なぜだと思えますか？

昔の人は、魔物は人の言葉を理解することができないと考えていました。ですから、遠くから声をかけて、返事が返ってくれば、向こうからやってくるのは魔物ではないと判断して、安心してその道を進みました。

でも、返事が返ってこなかったら、大いそぎで逃げだしました。力に自信がある人だったら、近くに来てから相手を攻撃したかもしれません。

相手にかける言葉「あいさつ」は、『私は魔物ではありませんよ。』と、遠くから来る人に伝えるためのものだったのです。

ですから、「あいさつ」がきちんとできない子どもは、親からとてもしかられたそうです。だって、魔物に間違えられて殺されてしまったら、大変ですものね。

二十一世紀の現代、街の中は真夜中でも明るくて、魔物が潜<sup>ひそ</sup>んでいるような暗闇もなくなっていました。

だからといって、魔物は本当にいなくなったのでしょうか。

現代では、機械が「言葉」を発します。人間の行動に合わせて、自動販売機や冷蔵庫、時計でさえも、いろいろな「言葉」をわたしたちに呼びかけます。特別に用意された「マニュアル本」がある店を除いては、人間の「あいさつ」に出逢う方が少ないのかもしれません。

こんな時代の「あいさつ」について、みんなで考えてみましょう。

# 活用に生かすための実践報告

「たそがれ」

## 1 主題の設定

中学校の時期は、礼儀の大切さは理解しているものの、気恥ずかしさのために素直に実践できなくなることが多い。また、型を強要されることへの反発から、わざと乱暴な言葉づかいや態度を取って相手の反感を買うこともある。このような時期には、時と場に応じた適切な言葉づかいや行動が主体的にできるように、内面に働きかける指導を重視することが大切であろう。

本資料は、あいさつがどのような意味から生まれたものなのかを、段階を追って考える過程で、自分たちの生活を振り返り、あいさつをしようとする心情・態度・意欲を育てようとするものである。

対象学年は第2・3学で、中学校生活にも慣れ、あいさつが疎かになり始めた時期に実施することが効果的である。

## 2 指導過程の工夫

導入時に、始めからあいさつについて考えるという堅苦しく構えてしまうので、「たそがれ」の言葉の意味を考えることから、自然にあいさつの意味を知るようにさせたい。

本資料は、細かい文言や人物の心情の変化などを伝えるものではない。したがって、指導者が資料の内容の概要を理解し、なるべく資料を見ることなく、自分の言葉で語りかけていくことがより多くの反応を引き出し、話し合いをより効果的に深めることができると考える。

## 3 発問の工夫

資料の発問では、障害者や高齢者の場合を考慮し、生徒から意見や質問がないときは、説明を補うことが望まれる。資料の発問のあと、現代の魔物の存在を考えさせ、今、なぜあいさつが必要なのかを生徒の中から出させたい。

## 4 生徒の反応（授業後の感想）

「たそがれ」については5、6名の生徒が聞いたことがあると答えたが、内容を知っていたのは1、2名だった。

資料の発問で、「耳が聞こえない人だったら？」「話せない人は返事ができないよ」という意見が生徒から出てきた。資料の発問では「今は魔物よりも人間の方が怖い」「親しげに話しかけてくる人ほど怖いかも」「魔物が人間を拉致して、その人間にしゃべらせるかも…」という現代社会を反映した反応もあった。資料では「機械の言葉は思いが届かない」と心の存在を意識した発言もあった。

授業前は「あいさつなんてしなくてももいい」という発言があったが、後半では「したほうがいいかも…」に変わっていた。授業後の感想にもあいさつの大切さを述べたものが多かった。

## 5 実践者からの一言

現実主義的な生徒が多い学級では「魔物」の存在を信じた昔の人の心情を受け入れることが難しいかもしれない。しかし、「非現実的な魔物よりも、今は人間の方がよほどおそろしい」などの反応を生かし、現代社会でのあいさつの必要性について、さまざまな意見を引き出して話し合わせたい。

（安佐中学校 大下恵子）